

# 教育実践記録—講義とゼミ活動

早野 禎二\*

## 1. 講義実践

講義では、社会学、現代社会と生活、社会福祉学の基礎を担当している。

講義では次のようなことを最初に述べる。

教えられる知識をただそのまま覚えることが勉強ではなく、その知識に基づいて、自分の考え方や見方を根拠を持って伝えたり、書いたりする力を持てるようになることが重要である。しかし、ただ、自分の思ったことを主観的に感想のように述べたりするのではなく、根拠を持って客観的、かつ論理的に表現できるようになることが目標となる。

### 1.1 講義科目

#### (1) 社会学の授業

社会学では、最初に次のようなことを伝える。社会には自然科学と同じように構造や法則があること（社会全体の構造把握）、社会はいつも同じではなく変わること（歴史的視点）、自分の身近なことに当てはめて理解するようにしていくこと（社会学的想像力の視点）。

#### (2) 現代社会と生活の授業

授業では、少子高齢化、家族の変化と介護、認知症、福祉の理念と制度、介護保険、年金制度防災、エネルギー問題、環境問題、農業食糧問題、ジェンダー、情報化社会など現代社会の問題全般を広く扱っている。

#### (3) 社会福祉学の基礎

社会福祉の理念、歴史、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、生活保護制度などに福祉全般について教えている。

### 1.2 講義方法

#### (1) 学生レポートのフィードバック

授業内でユニパを使い、課題を出し、エクセルで一覧となって出てきたものを、スクリーンに映し、その場でコメントをする。また、次の授業で、その中からセレクトしたものを印刷して配り、それを学生に読んでもらい、コメントを書いてもらう。さらに、そこからセレクトしたものを次の授業で配布しコメントを書いてもらう。他の学生のレポートを見ることで、自分と違った見方、あるいは共通点を見出し、自分の考えを深めていくような機会を設けている。このように繰り返しフィードバックし、ひとつの問題について洞察力の深まりを学生は身に着けていくことができる。

#### (2) 時事ニュースのレポート

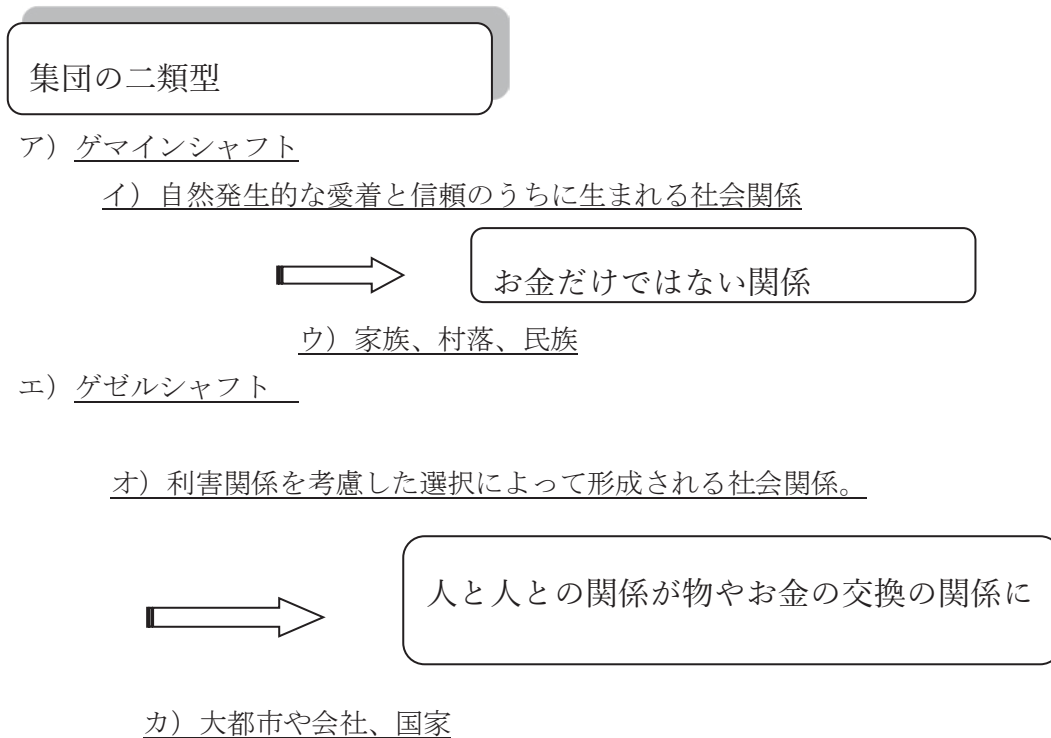
社会の動きを知るために新聞記事や時事ニュースを印刷して配る。そこから記事を選んで自分の見方をユニパに提出する。次の授業で、その中からセレクトしたものを配布する。それを読ませてコメントを書かせる。

---

\* 東海学園大学経営学部

### (3) プリント配布とパワーポイントの活用

授業では毎回プリントを配り、必要なところを記号式の穴埋め式にして、スクリーンでプリントと同じものを映しながら説明をし、記号部分を書いていく方法で進めている。手を使って書くことで頭の中に入ると考えている。授業で配布するプリントの一例は以下のようである。



課題の例としては、地域社会を講義するときに、農村と都市の違いを、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトという社会学の概念を使って説明し、自分の住んでいるところは、ゲマインシャフトかゲゼルシャフトかを書いてもらう。

## 1.3 講義実践

### 1.3.1 時事ニュースを読んで（2025年春学期）

○石破総理による金券配布の問題が報道され、政治とカネの関係が再び国民の関心を集めている。大学3年生として、また将来社会に出ていく立場から、この問題について深く考えさせられた

まず、政治家による金銭の配布は、公平性や公正さを損なう行為であると考ええる。政治の世界では、信頼と透明性が最も重要であり、金銭のやり取りが票の獲得や支持の強化につながるような仕組みは、民主主義の根幹を揺るがすものだ。仮に法律に違反していなくても、国民からの信頼を損なえば、政治家としての責任は極めて重い。

また、今回の問題は「なぜ若者の政治離れが進むのか」という問いとも関係しているように思う。多くの若者が、政治を「信用できないもの」として距離を置いているのは、このような不透明な金銭の流れや、説明責任の欠如が一因ではないだろうか。私自身、今回の報道を見て、「やっぱり政治家は自分たちの利益しか考えていないのではないか」と感じてしまった部分がある。

一方で、私たち有権者にも責任があるとも感じる。政治家を選ぶのは国民であり、その中には若者も含まれる。だからこそ、私たちは日頃から政治に関心を持ち、不正を見逃さない姿勢を持つことが重要だと考える。

最後に、この問題を通じて強く思ったのは、「説明責任を果たす政治家こそが信頼されるべきだ」ということだ。石破総理には、事実関係を明らかにし、国民に対して丁寧な説明を行う責任がある。そして、同様の問題が繰り返されないよう、政治全体の仕組みを見直す必要があると考える。

- この新聞記事を読んで、現在の日本の政治や経済の動きがいかに複雑かつスピード感をもって変化しているかを感じました。特に印象的だったのは、「江藤農相 更迭」のニュースです。発言による更迭ということですが、政治家が発する言葉の重みと、それに対する国民や政界の反応の敏感さが表れていると思います。これに後任として小泉氏が任命されるということにも興味深く、政界における人事のダイナミズムを感じました。また、備蓄米の放出に関する新制度が提示されたことも注目に値します。食料安全保障の観点から、備蓄米の運用をどうするかというのは非常に重要なテーマで、将来の農業政策や環境問題とも深く関係してくると思います。私たち若い世代にとっても、こうした制度が食生活や経済にどう影響するのかを考えるきっかけになりました。さらに、電気・ガス料金の支援策として月1000円の補助が出るというニュースも載っていました。物価高騰が続く中で、政府の生活支援策がどこまで実効性を持つのか、関心が高まります。実際にこの支援がどれだけの家庭にとって助けになるのか、自分自身の生活と照らし合わせて考える必要があると感じました。
- このように、新聞を通して社会の流れを知ることで、自分自身の考え方や価値観を見直す機会になります。大学生として、こうしたニュースに日々アンテナを張り、自分の意見を持つことの大切さを改めて実感しました。

### 1.3.2 映像を使った授業

社会を歴史的にとらえる見方ができるように過去のニュース映像や、NHKが制作した戦後の歴史映像などを学生に見せて小レポートを書かせた。社会は変化するものであること、変化しつつも現代に通じる部分があることを学生は感じてレポートをしている。

#### (1) 戦争直後のニュース映像を見て

- 映像を見て気づいたことは日本は戦争に負けてから少しずつ前を向くような流れができているように感じました。確かに始めの頃は食料などがなく闇市などが開かれていたが、国民が団結してデモをしたりして食糧難を解決しようと政府が動き出すようにして、良い方向に社会が動いていった。
- 食料が手に入らない食べられないのは大変と思った。配給が遅れたり、来なかったり、十分な量ではなかったのが闇市などができたと思った。教科書の黒塗りは子供がやっていて衝撃を受けた。戦後アメリカ文化が入ってきたことがわかった。
- 戦後は衣食に困り、闇市で買わないと食べ物が無い状況であった。食べるものがなく飢えて亡くなる人も多くいた。闇市がだめなのに食べる物を公平に渡すことなく規制だけするのはどうかと思う。人々は戦争で亡くなり帰れなかった人のことを思い、帰ってきた喜びとたくさんの物や人を失った悲しみで複雑な感情になっていた。
- 改めて戦争というものが怖いということが分かりました。これからの未来に戦争が起きないとは限らないので今のうちから戦争がどういうものなのか、どのような経緯で起きてしまうものなのか対策できるところは対策して平和な暮らしができる未来をつくっていきたいと感じました。
- 何かに虐げられている気持ち、戦地で日本の敗北を知り期待を裏切られた気持ち、なぜ自身の家族だけが死ななければならなかったのかという悲痛な遺族の思いは、戦争が終わった後の時代に生まれた人間でも虚しく、戦争という非道的な行為へ走ってはいけなと改めて考えさせられた。
- 歴史が積み上げた亡くなった礎があって、自分達が無常にも活かされている現実を感じた。仮に昭和へ遡って日本が戦争に勝利していたとしても、戦勝国として人道的には誇ることは難しいと考える。

- ある意味、敗戦したから人の痛み、自身らの痛みを後世に渡るまで伝え続けられているとも正直感じる。  
物質的に豊かになり、原爆の恐ろしさを今一度知った戦勝国でも同じ立場になって考える力がある。現代社会では、かつて歴史に亀裂が入った時代でも歩み寄ろうと努力することで、少しでも人の心は理解しようとする気持ちを私は強く信じたい。
- 米が二合ときめられておりお米が食べられないので豆や芋や時には雑草など食べていたのが苦しいと感じた。米が手に入れるところが闇市であり今の転売と一緒に感じた。
- 現在の値段から倍で売るところも今の時代と重なるところがあり今は政治がやっていると思い、先がやられると感じた。
- 玉王放送を聞いた後、背を丸めて泣く人たちの様子を見て、国民は何もかも天皇や国家に奪われたのに、こんな報告だと確かに咽び泣くのも当然だと思う。憎しみを抱えて生きる人もいるだろうに、それでも被害の少ない所の学生は走っていて、こうも対比的なんだと感じた。明るく生きるか、暗く憎しみを抱くかは人それぞれだと思う。どちらも私にとっては肯定したい存在だ。
- 食糧難に関しては、赤ちゃんをおぶっているお母さんが注意されているところを見て辛かった。なぜ弱い立場の人達が犠牲になるのか分からない。戦争孤児に関しては、今みたいにシェルターがないのか疑問だった。彼らの子孫がいる事を願いたいと思った。
- GHQの介入に対しては、天皇主権国家から脱し、国民の人権の確保と民主主義に繋がったので悪い事だらけではないと思う。しかしながら、負けた事は喉を焼くように痛い筈だ。やるせない。争いを使わず、自由を得られる手段はなかったのか悩む。
- アメリカの支配下の置かれたことによる発展は凄まじかったと思うが、それと同じ程の日本文化の消失もあったと思っている。元来日本的な文化に馴染んで生きてきた日本人にとって、ようやく世界的な文化に慣れてきた今こそ、このままでいいのか、変えるべきことはもっとないのかを意識し、考えていくことが大事だと感じた。
- 保守的なだけでは無い、問題があるならばそれをすぐに改善せんとする方策を、民衆、政府共に作り出していくことが大事だと、今起きている米の高騰を踏まえて感じた。米が食べられないというシチュエーションに、今と似たものを感じた。
- 今日の映像を見て思ったことは、私は今健康栄養学部で栄養などについて学んでいます。映像出てきた子達はエネルギーが1100カロリーしか取れない状況だったと知り、驚きました。1100カロリーだと基礎代謝量にも届かない人がたくさん出てくると思うので大変だったんだなと思いました。
- 今が幸せなのだと改めて実感する映像でした。曾祖父が戦争に行く途中に戦争が終わったので、本当によかったです。戦争に行ったら生きて帰ってこないことのほうが多いからです。また、政府が闇市を禁じた理由がわかりません。規格外の値段でも飢え死にするかもしれない状況で、目の前で食べ物を没収するのは希望が見えた中に絶望が来る感覚だと思います。
- 戦争は多くの人々から日常生活を奪うとても恐ろしい出来事だと今回のビデオを見て改めて思いました。白米も戦争によって採れる量が減少し、食卓でも食べれる量が減り芋などを白米の代用品としてかさまして食されている所を見て、小さい子供たちがガリガリになっていて可哀想だと思いました。戦争が2度と起こらないで欲しいと思いました。
- 映像を通して、戦争が人々の日常や心に大きな影響を与えることを改めて感じました。何気ない日常が一瞬で失われてしまう現実や、そこに生きる人々の苦しみや葛藤が印象的でした。戦争は過去の出来事ではなく、今の時代にもつながる問題であり、平和の大切さを考えさせられました。
- 戦争で人々が米不足や食料難、生活の困難に陥っていく姿がとても印象的で怖いと感じた。自分はそういう経験をしたことがないので、この怖さは計り知れないし体験もしたくないなと思った。こういう戦争の原因となる問題が少しでも減るようになってほしいと思った。

## (2) 平成の出来事の映像を見て (2025年春学期)

以下は『あなたと作る時代の記録 映像の戦後60年 平成2年～平成17年 混迷の時代 人々は生きる』(NHK)の映像を見た感想である。

- 阪神・淡路大震災はやはり印象的でした。この大地震は火事の被害も大きかったため、それを実際の映像でみたことが印象的でした。また、米騒動は今の時代とリンクしており、国内で問題になっているのも注目点ですが、タイの方で娘を売ってそんな中安く買い取ってと、相手国の状態まで考えているその言葉が印象的でした。
- この15年で印象に残っていることは？という街頭インタビューで全員が、阪神・淡路大震災や、少年犯罪、地下鉄サリン事件、バブル崩壊、テロ、などと言った暗い出来事ばかりを上げていて、それほど暗い出来事が多かったのだと感じた。今の時代、ものの値段が高くて不便な世の中だと思うことが多かったのですが、昔と比べればいい世の中だと感じました。
- 「失われた10年」を視聴し、日本が直面した経済の停滞と、その影響の大きさに驚かされた。バブル崩壊後、多くの企業が倒産し、働く人々の生活も一変した。時の「終身雇用」や「年功序列」といった制度が揺らぎ始め、社会の不安定さが広がっていく様子が印象的だった。
- 特に、自分と同じくらいの年齢だった若者たちが就職氷河期に苦しみ、将来に希望を持てなかったという点に心が痛んだ。現在の自分の環境と重ねてみると、経済の動きが人々の暮らしにどれほど大きな影響を与えるかを実感する。また、政府や金融機関の対応が後手に回ったことも、危機の長期化につながったことが分かり、政策判断の重要性も感じた。
- このドキュメンタリーを通して、経済の「失敗」は人の人生を大きく左右するという現実と、それを繰り返さないために学び続ける必要性を強く感じた。
- それぞれの時代で時代ごとの流れ、苦しみ、課題があったのだとわかりました。戦争直後の日本とバブル崩壊後の日本は、それぞれ異なる危機を経験しながら、社会の在り方を問い直すきっかけとなった時代だったともわかりました。
- 最後の「失われた10年」で失ったものも大きかったが、助け合いなど、得られるものもあるというのが印象に残りました。また、今の日本の豊かさや平和な日常が、当時の人々の努力と犠牲の上に成り立っているという歴史を、もっと多くの若者が理解すべきだと感じました。
- 映像を見て、今の時代も豊かとは言えないが90年代の日本は今より深刻な不況が続いていたことに気付いた。米については90年代はタイ米を輸入する必要があるくらい日本産の米が足りなかったり価格の高騰が発生しており、今発生している備蓄米放出より大変な時代であると考えた。
- 印象に残っているシーンは米が世に流れない中でタイ米を美味しくないと廃棄する人が相次いでおり、本当に米が足りないのに贅沢を必要とするべきでないと感じた。
- 他国のお米と比べながら食事をしているシーンで、このような時だからこそ様々な国のご飯を食べて味を比べてみるという前向きな思考で食事をしていて、素敵だと感じた。負の感情ばかりを抱くだけでなく、こんな時だからこそ楽しむという気持ちがあることは貴重だと感じた。現代と比べると、現代はかなり裕福な方であると考え。しかし、その中でも生活が困難な人々も存在する。そのような人々への支援が行き届く世の中になると良いと考えた。
- 米騒動のシーン○農家さんたちが一生懸命作ったお米を捨てるとか、農家さんたちの意見を聞き入れない政治家に対して腹が立った。タイ米を輸入しても食べ慣れてないし、味が違うから好き嫌い分かれるし、そこまでしてお米を食べる必要があるのかな？って思った。昔も米騒動起こったのに、今起きている米騒動に対し過去の学びから何も学ばないのは意味がわからない。話しにならない。
- 昭和60年からバブル崩壊が起きて、大量の倒産と不景気が生まれた。しかしながら、それと共に経済大国に変わり、日本の電化製品欲しさに外国人が来る事も多かった事が印象的だった。また、阪神大震

災が起こったのに、早く復興できた事も驚きだった。地震大国だからだろうか、人と人の絆ゆえに早く復興できたのか気になる。しかしながらサリン事件など、平成初期は危なくて、不穏なことばかり起こると思う。不登校も生まれて、電化製品の進化が行われて、携帯が生まれたからかだろうか、人との絆が希薄している気がした。

- バブル経済崩壊後の「失われた10年」と呼ばれる時期の映像を視聴し、その社会的・経済的影響について考察した。映像では、バブル期の繁栄が急激に終わり、街中の商店や企業が次々と閉鎖されていく様子が映し出されていた。

この変化は単なる経済指標の悪化にとどまらず、多くの人々の生活に深刻な影響を及ぼしていたことが強く印象に残った。特に、働く人々の不安や苦悩が映像を通じて伝わり、経済の混乱が個人の生活基盤を揺るがした現実を実感した。また、一方で日本社会が困難な状況から立ち直ろうとする様々な努力や工夫も示されており、希望の光も感じられた。

ただ経済の話ではなく、人々の暮らしや価値観、そして国全体の空気までが変わっていったことに驚きました。バブル期はまるで夢のような時代で、何をしてもお金が回って、将来に不安を感じる人は少なかったそうです。でも、その反動で訪れたバブル崩壊は、何もかもを一気に変えてしまいました。

- バブルが崩壊し失われた10年と呼ばれている中、前向きに生きている人もおり、かなり暮らしの差が出ていたのだと思う。当時の学生間のいじめや不登校の増加原因に貧困もあったのだらうと考えている。当時のことを親に聞いてみたいと思った。
- 現代の日本の過去にも阪神淡路大震災やバブルの崩壊、米騒動など、辛い過去があったにも関わらず人々が前を向いて希望を持って強く生きてきたからこそ今の日本があるのだと思った。
- 映像の中では、企業が倒産し、リストラが当たり前になり、若者の就職も難しくなったことが描かれていました。正直、今の私たち大学生が抱えている「将来への不安」は、この時代にルーツがあるのだと感じました。就職氷河期を経験した人たちの話は、単なる昔話ではなく、今でも続いている社会の歪みの一部だと思います。
- 私は今、安定した仕事に就くことが当たり前だと思っていたけど、それがどれだけ「当たり前じゃなかったか」を改めて知りました。そして、経済や政策の影響は、一人ひとりの人生に深く関わってくるんだと実感しました。
- この映像を通して、「経済の話は難しいから関係ない」と思っていた自分を少し反省しました。これから社会に出ていく身として、過去の失敗から学び、自分の将来も、社会の未来もちゃんと考えていきたいと思います。
- 物や形だけでなく、個人の価値観、考え方などからも現代とは違う特徴が感じられた。また、変化はいいことであるのか、様々な生き方で住みやすい環境と感じる人もいればいない人もいる。その価値観をお互い尊重できるような日本になればいいと思う。
- わたしがこの映像を見て思ったことは産業が発達して、楽になるはずなのに生活はどんどん困窮してしんどくなってお金や会社を失っていた。失ったものはなんですか？の問いに対して希望と答えていた人がいたのはそれだけ衝撃的で大変な出来事だったのだなと感じた。
- 今日の映像をみて印象に残ったことは米騒動が少し前にも起こっており、減反政策を行っていた政府に対して国民が声を上げるという部分が今の米の価格高騰にも似ている部分があると感じました。
- 現代の日本の過去にも阪神淡路大震災やバブルの崩壊、米騒動など、辛い過去があったにも関わらず人々が前を向いて希望を持って強く生きてきたからこそ今の日本があるのだと思った。
- お米の食べ比べで、タイ米には汚れが沢山浮いていたり食感、質がやはり国産のものとは違うのを見て、今の日本の備蓄米の品質も本当に質が良いものなのかと少し考えてしまった。
- 戦後のコメ問題について、不純物を取り除く手間を取らないと食べられない状態のタイ米が人々の食糧

となっていた事やそれほど生活のリアルな場面でも厳しい状況であった事、裏では人身売買などもあったりと、その事態を経験した人々はどのような気持ちでどのように乗り越えて戦って生きてきたのか、想像するだけで心が締め付けられた。

- コメ問題だけでなく震災やバブル崩壊なども、人々が苦勞した部分が多い分、人と人の結び付きも強かったのではないかと感じ、そこに関しては今の時代には失われつつある人々の強い支え合いの姿があったのではないかとも思った。
- 印象的だったのは得たものが多いと答えていたおばあちゃんです。孫ができて喜んでいましたが、失うものがありながら、得るものも確実にあります。時代を感じ取りながら生きるのは難しいことです。しかし、現代でも変わりゆくものに敏感に反応し、悪いことばかり目が行ってしまいます。過去ではなく、今に目を向け、自分たちがもっているもの、その幸福に気づいて向き合うべきなのかもしれないと映像を見て思いました。
- 日々、備蓄米放出に伴い米の味が多方面で囁かれているが、食べられるだけありがたいと私も深く感じていた。故に、映像を見て外国産の米を試し、美味しく食べる工夫をすれば文句も少なくなると感じた。生産者が苦勞して作ったもの食べさせてもらえているという感覚を、今一度見直す必要性がある。米に拘りがあり、安く美味しいものを手に入れようとする人の気持ちは時に図々しいとも思う。
- 家庭を犠牲に残業してまでも幸せか、という昨今にもつながる課題は残り続けている。技術や文明が発達した物質的には明るい幸せも、人々の心がそれに追いついていなければ、幸せという空虚を掴ませられているような感覚だと、過去と現代を比べて感じた。

### (3) 今の時代は何色か (2025年春学期)

授業で見せた『あなたと作る時代の記録 映像の戦後60年 平成2年～平成17年 混迷の時代 人々は生きる』(NHK 2015年)の中で、今の時代は何色かを街頭などで聞き、その色を書いてもらい、説明をしてもらうシーンが出てくる。それを見た学生に、今の時代は何色と思うかを書いてもらった。

- 今の時代は「灰色」だと思いました。平和なようで不安定さも抱えており、未来への希望と不安が入り混じっているからです。完全な白でも黒でもなく、私たち一人ひとりの行動によって、これからどんな色にも変わっていく時代だと感じました。
- 今の世の中を色に表すと「灰色」。常に何かしらの問題が起きていて、モヤモヤした世の中だから。
- 今の世の中の色はグレーだと思う。前に比べて、技術や社会の仕組みなど良くなっているところはたくさんあると思うが、もっと改善すべき点や目を向けるべき人々はたくさんいるべきであると考えます。
- 今の日本を色で表すなら灰色だと思う。理由として今の日本は食料やインフラなどさまざまな問題を抱えており、この先の日本の未来を見通すことが不可能であり、社会の流れが悪い方向へと動いてしまっている日々のニュースを見るとそう感じてしまうためである。
- グレー。得をしながら楽に生きてる人もいれば、騙されて苦勞してる人もいて、色んな色が混じった世の中だから。
- 紺色というイメージがあります。ネガティブなイメージの紺色という感じで上手く世の中が回っていないような気がするからです。
- 今の時代を色に表すと、グレーだと考えます。理由は、「失われた30年」と言われる経済停滞が続き、若者を中心に将来への不安を抱える人も多い一方で、世界有数の経済大国としての安定感も持ち合わせていると考えるからです。
- 今の時代の色は、グレーだと思います。真っ暗ではないけれど、かといって明るくもない。先行きが読めず、どこかややもやとした不透明な空気が漂っているように感じます。
- 今の時代の色は黒である。理由は、様々な問題が発生する中で解決したとしても別の問題点が発生するからその問題から抜け出すことが難しいことから黒であると考えた。

- 日本の色は灰色であると感じる。理由はいいこともあれば悪いこともあり、それが極端であるため。解決に進むにはそれが混じり過ぎていると思う。
- 私は今の時代を青色だと捉えている。青色は「冷静さ」や「安定」をイメージさせる色のように感じる。バブル崩壊の激しい変動や混乱のあと、日本は安定や持続可能な成長を目指しているように感じた為である。
- 私は今の時代は虹色だと思う。多様性とかが出てきて求められているからだ。また、色んな国の人も住むようになったのでそれもある。しかしながら、虹色は混ざると汚くなるので、しっかりした枠組みも入れるべきだなと感じた。
- 今の時代を色で表すなら黒に近いグレーだと考えるなぜなら完全に今黒というわけではないが米不足や物価高騰税金アップにより今後さらに生活が厳しくなる時代が来ると考えているからである。
- 私はグレーだと思う。化学が発達しても地震などは起こるしSNSの発達でいじめなどのことも起こる。
- 映像を見て、今よりもお金に困っていた時代であったのにもかかわらず戦争や米騒動ありとても大変な時代であったのだと感じました。お金もない上に災害で家を無くしてしまった人もいたのかなと考えるととても辛今のであったのだらうと感じました。この映像を見てから今を色で例えたとしたら白寄りのグレーなのではないかと感じました。昔よりは貧困問題も良くなっているのではないかと感じたからです。
- 今の時代の色は灰色であると考えた。その理由として良くなっている部分と悪くなっている部分が両方バランス良く入り混じっているというふうに感じたためである。また今の時代の色は灰色であると考えた。その理由として良くなっている部分と悪くなっている部分が両方バランス良く入り混じっているというふうに感じたためである。
- 今の時代は黒色だと思う。今の時代も大阪万博が成功していたり様々な技術が進歩していて便利になっているけど、これらのプラス面よりも政治や外国人の問題などのマイナス面での被害が大きく、この問題に政治家たちが対処しようとしていないので真っ黒だと考えた。
- 日本の色は灰色であると感じる。理由はいいこともあれば悪いこともあり、それが極端であるため。解決に進むにはそれが混じり過ぎていると思う。
- 映像を見て、今よりもお金に困っていた時代であったのにもかかわらず戦争や米騒動ありとても大変な時代であったのだと感じました。お金もない上に災害で家を無くしてしまった人もいたのかなと考えるととても辛今のであったのだらうと感じました。
- この映像を見てから今を色で例えたとしたら白寄りのグレーなのではないかと感じました。昔よりは貧困問題も良くなっているのではないかと感じたからです。
- 今の日本はグレーだと思う。色んなことが発達して便利な世の中になった分、国が色々なことを隠蔽したりどんどん国民の生活が苦しくなる印象が強いから。
- 今の時代を色で表すなら黒に近いグレーだと考えるなぜなら完全に今黒というわけではないが米不足や物価高騰税金アップにより今後さらに生活が厳しくなる時代が来ると考えているからである。
- 色については、灰色だと思います。先が見通せない、くすんだ色というイメージです。しかし、これは無色透明な澄んだ未来にも真っ黒にもなり得るという期待も込めています。
- 昔は今みたいに便利なものがなくカーナビや携帯電話などがなかった状態で過ごしていたすごいなと思った。今の時代はすごい便利になった時代なんだと改めて感じた。虹色昔は何もなく真っ白だったが今はたくさんの新たなものが開発され便利になり開発されるたびに色がついていくイメージがあるので今の時代はたくさんいろんな色がついた虹色だと思う。
- 今の時代は黒色であると考え。賃金の引き上げ、価格高騰化、少子化政策、SDGsなどの課題が山積みで一つずつ払拭していくには、人手と実践力、思いやりが必要とされる。仮に、次世代を担う人々へ先代の社会的な荷物を担わされる未来も遠くないうちにあると思う。故に、暗い思考も含めて黒である

とを感じる。特にSDGs問題に関しては生徒に考えさせ、社会的に大人たちが押しつけているように時折り感じられる。

- 昔はスマートフォンなどがなく退屈な世界のように見えた。今はスマートフォンの普及やカーナビなどの電子機器が増え便利な世界になったとおもう。だがそんな世界の色は虹色だ。人によって世界が違う。1人は幸せ、1人は絶望を、1人は退屈をそんな世界がいまの地球や日本の姿だと思った。
- 今の日本は白色だと思う。昭和から平成初期にかけて混沌していた時代と比べ、平成末期からは安定しているように思える。しかし、近年の状況を見るに、ぼーっとしてはまたかつての混沌の時代に戻ってしまうような危機感を覚える。平和を維持しようと努力すればその通りになるだろうが、サボっては暗い色になってしまう。どの色にも染まる可能性がある現代は白色であると考えた。
- 今の時代に色をつけるとしたら白。社会的な問題や様々なものが便利になったからこそ、生き辛さを感じやすくなった時代とも思うが状況は悪くなっていく一方だと感じてしまうが逆に、いくらでも良い方へ変化していけるとも考えた為、良い意味で何色にも変えられるという希望を込めて白にした。
- 今の時代は茶色だと思う。個人の尊重が重要視されてきている社会なので、個人の色々な色が混ざりあった濁流ような色がこの時代の色だと考えたから。
- 今の時代は黒色だと思う。理由は色んな個性を持った人や今までの色々な事件や出来事が全部まぜ合わさって今があると思うから全部混ぜたら黒になると思った。
- 今の日本はグレーだと思う。色んなことが発達して便利な世の中になった分、国が色々なことを隠蔽したりどんどん国民の生活が苦しくなる印象が強いから。
- グレー。幸せに生きてる人も入ればそうじゃない人もいて色々な色が混じってると思った。
- 今の時代は色で例えると、グレーだと思います。昔に比べたら良くなっているところはたくさんあるけれど、もっと改善すべきことや、手を差し伸べるべき人はたくさんいるからです。
- 自分の日本の色は青色で、これからの日本がより良くなって欲しいという意味でこの色を選んだ。
- 今の社会でも私はグレーだと思う。化学が発達しても地震などは起こるしSNSの発達でいじめなどのことも起こる。
- 今の時代を色で例えるのはすごく難しいが、多様性が認められつつあり、実際にいろんな人間が社会の中で活躍をしている事を考えると、虹色など、単色では無い色が当てはまるのかもしれない。

#### 1.4 講義実践の総括

学生の社会的関心は以前より強まっているという印象を受ける。ネットなどで様々な情報が入ってくるが、それをそのまま受け入れる学生いる一方で、以前よりも、物事の本質をとらえたいという要望を持つ学生が増えているというのがここ最近の授業を行っていた印象である。

このような変化は、社会問題が学生の身近な生活の中にも顕著に感じられるようになってきた時代状況から来ているように思われる。授業では学生の身近な生活の問題から出発し、そこから社会全体をとらえ、それを踏まえて、自分が社会をどのようにとらえ、その中でどのように生きていくかということを考える機会としてきた。それぞれの生活から出発し、抽象的一般的な概念に至り、そこからまたそれぞれの具体的な生活に降りていくことで、自分の生活と社会を結びつける想像力を身に着けることができる。

時代と社会が変化の時代を迎えており、学生は敏感にそれを感じているように思われる。社会の変化をとらえたい、歴史を知りたいという関心は以前より強くなっており、それに応えるような授業が必要になってきている。

また、授業は、いろいろな知識を学生に伝えるが、それを絶対に正しいものとしてではなく、それを聞いて自分たちはどう考えるというスタンスで行っている。他の学生のレポートを読ませるのも、同世代の学生が同じ問題をどう考えているのかを知り、多様な考え方や世界があることを理解させるためである。また、

先生の言うことをすべて正しいと受け身に考えるのではなく、それをいったん自分の中で咀嚼し、自分の考えが持てるようになることが重要であると学生に伝えている。学生は、先生だけでなく、同じ授業を受けている他の学生からも刺激を受け、相乗効果的に、潜在的な力を外に引き出していくことができる。

このような授業を進めていくことによって、学生は、自分一人の世界から、自分の外に他者の見方や意見があることを知り、客観的な見方をすることができるようになる。すなわち、自分とは異なる他者の存在を意識するようになる。それを踏まえて、自分の考え方や価値感をいかに他者に伝えることができるかという課題に取り組むことになる。

授業をこのような場とすることによって、外から来る情報を、そのまま受け入れるのではなく、いったん、立ち止まり、本当にそうなのかと考え、正しいことは何か、いろいろと調べる態度を身に着けることができる。情報化社会においては特に、教育がこのようなことを身に着ける場として重要になってくる。それは学校という対面の授業だからこその部分があると考ええる。

このような授業を行うためには、教員にも力量が求められる。教員自身が、いろいろな本を読んだり、知識を持つことが必要である。教員自身が、教養や知識を踏まえて、しっかりとした社会や歴史への見方を持ち、それを学生に伝えようとする必要がある。そのような教養と教員自身の人生の経験が相まって良い授業が生まれてくるように思われる。

学生は確かに、最初は知識や関心が少ない人が多い。しかし、学生には潜在的能力がある。それを眠らせたままにしておくか、それを外に引き出し発現させることができるかどうかは、やはり教員の力と言わざるを得ない。個々にはいろいろな学生がいることは確かであるが、すべて学生の責任することはできない。

教員が学生を見ているように、学生も教員をよく見ている。教員が授業を工夫しようと常に努力しているか、新しい試みを止揚としているかを学生は敏感に感じ、反応する。授業内容が良いものかどうかは別にして、教員が熱心に取り組んでいるかは学生に伝わるということは言われてきたことである。それは著者のこれまでの経験からも正しいことのように思われる。

しかし、大学を含め、教育現場の教員は多忙で、十分な授業準備の時間が取れないのも現実である。教育現場のこの問題の改善が進まない限り、質のある教育を行っていくことが難しくなっている。この問題を教員個々人の中に留めるのではなく、現場で互いに共有し、社会的なものとしていくことが必要なのではないだろうか。

また、最近の学生の傾向について気になったことを述べておきたい。

著者は、大学で授業を行うようになって、20年以上であるが学生が提出レポートを見ても、20年ほど前は、表面的に触れるだけのレポートが少なからず見られたが、10年ほど前より学生の傾向が変わり、特にここ数年、それぞれの価値観で自分の言葉でよく考えて書く学生が増えてきているという印象である。全般的に時代の変化があり、学生もその影響があるように思われる。

他方、現在の学生のレポートは、ある枠内で書いているようにも感じられる。20年ほど前は確かに表面的で終わるものが多かったが、中には、枠を外れるような自由な発想の個性的なレポートに出会うことができた。今のレポートは確かに、考えが深く書かれているものが以前よりは増えているが、このような発想の自由さ、自分らしさをそのまま出しているレポートはあまり見られなくなった。それがなぜかが気になるところである。

以前は、差別について書かせると、反対の意見が多い中で、「差別は人間の本質だから、なくすことはできない。」という意見を書く学生がいた。それが正しいかどうかは別にして、このような意見が出ることによって、たとえ、その場で答えが出されなくても、問題の本質がどこにあるのかを考えるきっかけとなる。もし、学生が学校では意識してか、しないかは別にして、そのようなことを言ったり、書いてはいけないという無言の力を感じて自己抑制を行っているとしたら、果たしてそれがよいのかということも考えなければならない。そしてなぜ抑制が働くようになったかも教育に携わる者として考えなければならない。

いように思う。

人間は本来、多面的であり、それを踏まえて教育をしていくことが大切なことではないだろうか。何が良いか悪いかも、最初から答えがあるわけでない。教育という場は本来そのようなことを時にぶつかりもありながら考えていく場であったはずである。

教育の場ですぐに答えが出るものとそうでないものがあり、後者は、時間をかけて、社会に出てからも考えていく問題であることを意識させることに教育の意味があるのではないだろうか。

多様性と個性ということが言われる中、その中身が本当の意味で検討されてなければならない時が来ているのではないだろうか。

## 2. ゼミ活動実践

### 2.1 活動の目的と概要

体験と福祉の知識を結びつけながら、福祉とは何か、幸せとは何か、自立とは何かを、それぞれが考えていけるゼミ活動を目指している。また、一人一人の主体性と自発性を尊重し、ゼミの仲間の中で自由に自分の意見を述べ、一緒に活動していくことでつながりを大事にしていくゼミ活動を重視している。このような活動を通じて社会に出てから必要となる人とのつながりを作る力、様々な人とコミュニケーションをとる力をつけることを目的としている。

ゼミでは、地域の高齢者施設や障害者施設などを訪問交流して、そこでの体験を踏まえて、それを福祉の知識や考え方を結びつけて考え、書いたり、発表していく活動を行っている。

また、福祉現場の人をゼミに呼んで講演をしてもらったり、ゼミの中で、車いす体験や目隠し体験などを体験学習を行ったり、3Dで福祉補助具の製造に取り組んだりしている。

### 2.2 車いす体験



写真1 学内での車いす体験

以下は車椅子体験を通しての学生の感想である。

- 車椅子を体験して気がついたことは、車椅子を押す側の方の人は周りの人や扉の広さなどを踏まえて押してあげなければならないのでなかなか大変なことだと思いました。
- 道が少し凸凹しているところでも少し操作しづらかった。だから、バリアフリーの場所に限らず全ての場所を平らに設計することが大切だと思った。
- 車イスを乗ってみて感じたことは、ただ少しの段差だけでも上がるのが辛いことがわかった。道を進むだけでも道が悪いとこと良いとこの差がだいぶ違って驚いた。
- エレベーターでは出た時のことを考えなきゃいけないし、その施設や場所にもエレベーターがないとかなり不便だと思った。
- エレベーター、自動販売機のボタンが押しやすかったです。段差があるときつかったです。乗ってみて思うのは扉を通る時にぶつかってしまうこともあり押す方からしたら介護人の足の方までは見えにくく、危険に感じました。小さな段差でも後ろになってのぼるなど、とても大変だと知りました。
- 上半身を使うのですごい疲れました、車椅子の幅が決まっているので狭い道は難しいと感じました。
- 自分で回す方が自由で楽だと思っていたけど、回すのに意外と力があるし、段差などは結局人の手を借りないと通れないなど、思っていたよりも不便だった。
- 初めて車椅子を体験したけど思ったよりも腕の力が必要でとても疲れると思いました。若者が乗る分にはまだ大丈夫だと思ったけれど、高齢者が1人で乗るとなると非常に苦しいのでは無いのかなと思いました。少しの段差でも上がれないのに高齢者1人では無理だと思うので2人必要かなと思います。世の中がバリアフリーにもっと積極的になれば高齢者の方1人でも外で車椅子乗れると思うので頑張りたいです。
- 想像していた通り腕の力が必要だと分かった。目線が下がるので、少し速度を出すだけで怖いと知った。また、段差の昇り降りは思っていた以上に難しく、1人で車イスを使うのは難しいことが分かった。
- 乗ってみて思ったことは、段差や溝なんかも辛いけど、扉が以外に狭くて辛いのかかもしれないと思った。他にも足は楽だが、腕は結構つかれる。スピードがあると結構怖いのと押してもらっているとちょっとしたカーブも怖かったりするんだなと思った。
- 段差などに当たるとタイヤが横向きになって単純に力だけでは上るのが難しいと感じた。補助の人がいないと車イスで日常生活を送るのが本当に難しいので、バリアフリーがもっと普及してほしいと思った。



写真2 学園祭での車いす体験（2019年10月）

## 2.3 施設見学体験

見学先としては、高齢者デイサービス（黒笹の笑みりハビリデイサービス、米野木のニコニコエンジョイハウス）知的障害者の作業所（天白 ほっとはむ、平針福祉会）、聴覚障害児のデイサービス（つくしっこ）、福祉器具展示場（御器所福祉器具プラザ）などである。

### (1) 黒笹笑みりハビリデイサービス（2022年4月、5月）

デイサービスに通っている地域のお年寄りと交流。事前にゼミで、ゲームを考えたり、どんな話を聞か話を話し合いを行う。

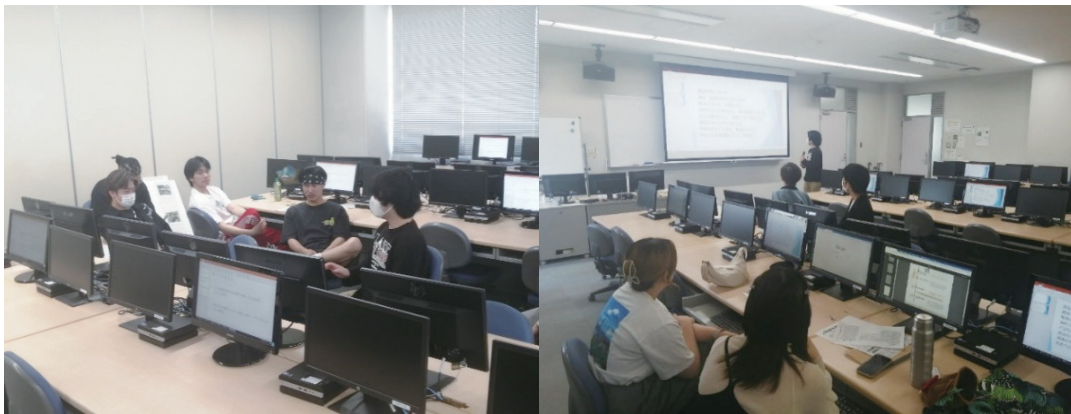


写真3 事前の話し合い

話し合った聞きたいことの内容を以下に記す。

「過去の車について」「趣味」「施設で何を話しているか」「戦争について」「当時の日本」  
 「20代くらいのこと」「昔の遊びについて」「過去のオリンピックについて」「孫の話」  
 「初めての月面着陸のこと」「映画のタイトル」「就活について」



写真4 デイサービスでゲーム交流



写真5 ゲーム交流



写真6 お年寄りの話を聴く

施設先で「戦争について」聞いた話は以下の通りである。

- 小学3年生の頃に戦争で母親を亡くしてそれから父親1人で育ててもらったのですが、それから兄弟や従姉妹、お友達までもが戦争で死んでしまったとお話ししていました。そして、25歳くらいの時に戦争が終わってお見合い結婚したそうです。一度も旦那さんを好きだとは思ったことがないけど優しくいい人だったとおっしゃっていました。
- 今日の見学でおじいさんやおばさんと沢山話をしました。その中で印象深いのは戦争を経験した人の経験談です。夜寝ている時にサイレンが鳴り響き急いで防空帽に逃げたなど聞いてて聞き入る話が多かったです。
- 戦時中は警報が鳴れば学校からすぐに返され、畑に掘った防空壕に逃げていた。夜襲が多く、三菱などの軍事工場が集中的に狙われた。食料は兵隊優先で不足。電気は爆撃でつかない。ラジオも通じない。

## (2) ニコニコエンジョイハウス（高齢者デイサービス）見学（2023年6月）

ニコニコエンジョイハウスで回想法の取り組みをされている方に事前に講演に来ていただく。

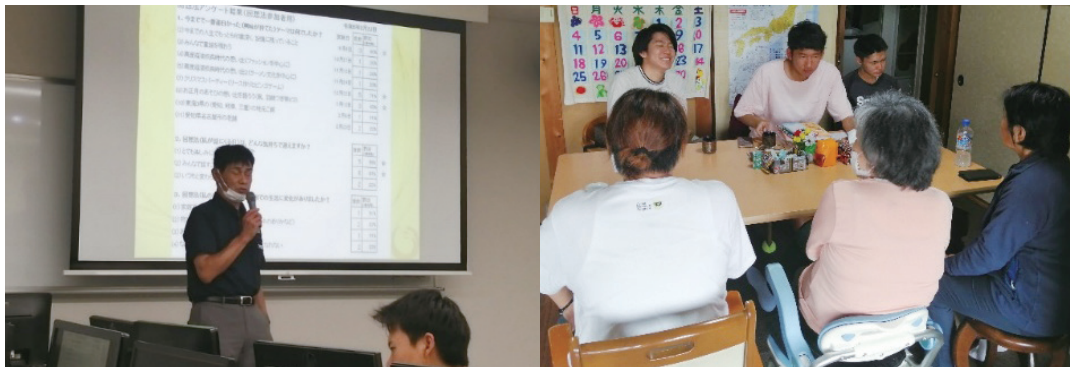


写真7 回想法の講演

写真8 デイサービス訪問交流

## (3) 知的障害者施設「ほっとはむ」

名古屋市天白区原にある「ほっとはむ」は知的障害者の施設で、クッキーを作り、販売をしている。また、生活施設があり、そこで知的障害者の人たちが生活をしている。そのクッキーづくりの現場と、生活施設を見学した。

そのあと、施設内にある知的障害者の人が働く喫茶でクッキーとお茶を飲みながら、施設長の説明を受けながら見学のまとめをする。

知的障害者の作業所「ほっとはむ」から、クッキーを仕入れ、



写真9 施設内の喫茶（2022年4月）

学園祭で販売しました。事前にゼミで、仕入れについて話し合いをして、クッキーの種類と、仕入れ数、売値を決めた。



写真10 事前準備



写真11 学園祭当日の販売

#### (4)「平針はあと」(知的障害者施設) 見学



写真12 施設職員からの事前説明

- 知的障害者のひとは集中力や注意力を持続することが難しかったり、コミュニケーションをとることが難しかったりします。
- 接し方は相手の気持ちに寄り添ってあげることが私は大切だと思います。
- 知的障害は、コミュニケーションが取るのが難しかったり日常生活が困難だったりします、なので自分から優しく話しかけたり、話の内容はしっかり明確に短くするなどして接していけばいいと思います。
- 平針はあとを見学してみて、知的障害を持ってでもできることはしっかりして、個人の差によって症状が変わってくるので対応の仕方や理解があったので、少しだけ知的障害とコミュニケーション取れたので、とても勉強になりました。
- 元気な方もいれば大人しくひとりで過ごす方が居て個性があるなと感じました。
- 施設見学を通して行くまでの知的障害のある方のイメージは静かで自分のしたいことをうまく表現できないの多いのかと思っていたがそうではなく活発に自分たちに挨拶してくれたり、名前を聞いてくれたりしていてももちろん静かな方もいたけどそうじゃないんだなと感じました。
- 接し方として、ゆっくり時間をかけて話してあげることで、相手があわてずにちゃんと理解して話できることが大切です。また、年齢に合わせた言葉も大切だと思います。障害を持ってるので、ずっと幼児に話すような言葉で成長してきた人も多いと思いますが、わかりやすく対等に話してあげることがたいせつだと思いました。
- シャイな人と社交的な人とで分かれていて、人と接するのが好きなんだなって理解出来ました。
- 行く前は怖いなという気持ちがありました。これは、どのように接していけばいいのか分からないのもありましたし、今まで触れ合った事がないのも理由の一つでした。ただ、人によって様々でしたが明るい方が多く自然に笑顔になっていたのが貴重な体験ができたと思います。相手側から気さくに話しかけてくださったので緊張する事なく会話ができたと思います。教職課程を履修しているので実習の一貫で特別支援学校に行きます。今回の体験を通じて人によって話し方や接し方を変えていくことを学べたので生かしたいと思います。

#### (5) つくしっこ（聴覚障害児放課後デイサービス）見学 2023年11月

聴覚障害児の放課後デイサービスを訪問見学。事前に、少し手話であいさつや名前を練習して訪問した。



写真13 施設での交流

#### (6) 名古屋福祉器具プラザ見学

名古屋市御器所にある福祉器具プラザを見学した。福祉器具や補助具などが展示してあり、職員の説明を受けながら体験を行った。



写真14 車いす体験



写真15 車いすの昇降移動



写真16 浴槽リフト

## 2.4 教室内学習

ゼミでは、体験学習を行いながら、福祉についての考え方を学生に考える機会を設けている。答えが一つではないことを学生自身に考えさせ、自分の言葉でそれが表現できるようになることを目指している。体験と知識と思索を重ねていくことで深い学びができる。

### (1) 差別と区別の違いは何か

- 区別は、自分も相手も納得する分け方であって、相手が嫌な思いをしたりする区別をすると差別になると思う。
- 差別と区別には明確に違いがあると思います。差別は人を下に見ているイメージがありますが、区別はこの人がどういう人かと言う点を分けける考え方だと思います。
- 差別される側に理由はないという意見ですが、こちらには賛同します。される側が変な挙動をとっているということはあるかもしれませんが、それを理由として差別する加害者側が100悪いと思います。
- 差別と区別は似ているけど違うと思う。差別はその人本来あるものを否定されたりすることで、区別は男女だったり日本と外国人などの意味を指して思う
- 差別は、分類するだけでなく、それによって人の扱い方を変えてしまうこと。区別は、もともとあるもの、もっているものによって分けただけある。
- 差別と区別の違いは人の考え方。
- 特別の違いはないと思います。いじめる側の考え方次第。

○違いはほぼないと思っています。物は言いよう。少し思ったのは、差別は行動、区別は言動。差別される側、差別する側どちらにも理由はあると思う。人それぞれの普通があるから。

## (2) 普通とは何か

まず、「普通」とは一体どういう意味なのか考えさせられた。調べると「特に変わっていないこと。ごくありふれたものであること。それがあたりまえであること。また、そのさま。」とのことだが、健常者が障害者かなど、立場によって「普通」の定義が異なるのである。健常者にとっての「普通」は障害者にとって「普通」ではなく、逆に障害者にとっての「普通」は健常者にとっての「普通」ではない。

その違いを理解して考慮した上で障害者と接する必要があるのはもちろん、健常者も障害者も同様のことを「普通」であると思えるような、互いが手を取り合って生きていける社会を作っていく必要があると感じた。

## (3) 歌や詩（「まっぴょんの詩」）を読んで福祉について考える

「まっぴょんの詩」（図1）は、統合失調症の人が、作った詩で、病気を持った苦勞と生きる希望を歌った詩集である。自費出版され、中日新聞でも報道された。学生に、詩集から好きな詩を選ばせ、どのフレーズがよかったか、なぜそう思ったのかを発表させた。詩を通じて障害とは何か、健常とは何か、働くとは何か、幸せとは何か、生きるとは何かを考えた。

○「この世に生まれてきたのだから」（図2）を読んで、健常者の人が感じるできない障害を持つ人ならではの「その優しさがはがゆい」や「冷たい人のまなざしにはもう慣れた」などのリアルな心情などが書かれていて、複雑な気持ちになった。

○「この世に生まれてきたのだから」の詩から幸せになりたいという気持ちを強く感じました。なぐさめ合って生きていくより、自分の力でなにかを成し遂げたいという気持ちに共感すると共に、障害があるから、行動に制限がかかるのは辛いだろうなと思いました。

○僕は「この世に生まれてきたのだから」を気に入りました。障害を持った人じゃなくても、どんな人にも多かれ少なかれコンプレックスがあって、そこばかり気になってしまいうし、みんなにバカにされてると感じてしまうことがあると思うけど、周りの人が偏見を持たずに普通に話したあげることがが大切なんじゃないかなと思いました

○「ゆったりファームブルース」（図3）が良いと思いました。病気と闘うことや人生を「雑草抜き」と表

目 次	
2-3	まえがき
4-5	目 次
6-7	講演「人と人との支えあい」
8-11	講演「やさしい街で暮らしたい」
12-16	インタビュー
まっぴょんの詩	
20-21	まっぴょん三部作の解説
22-24	♪西3病棟
26-29	♪この世に生まれてきたのだから
30-32	♪僕たちの灯台
34-38	パンチドランカー
40-44	Straight Life (ある精神障害者の挑戦)
46-49	Believe
50-53	ありがとう
54-56	夢なくしても
58-61	生かなけりゃ(雨 時々晴れ)
62-64	かぞえている
66-75	無題
76-78	ゆったり ファーム ブルース
80	無題
82	無題
84-86	バベガ
88	ひとこと(2011年)
89	三月の入選俳句
90-91	リカバリーのために大切な事
92	無題
94-98	アンコール パンチドランカー
100-101	まっぴょん
102-103	あとがき

図1 まっぴょんの詩 目次

♪この世に生まれてきたのだから	肩を寄せ合って なぐさめ合って 生きていくのは 幸いんだ
この世に生まれてきたのだから 幸せになりたい 広い世界で 自分の足で 瞳を輝かせて	この世に生まれてきたのだから 幸せになりたい 広い世界で 自分の足で 瞳を輝かせて
世の中に幸せ 不幸せはあるけれど 僕はどこにいますか？ 周りの人は皆親切だけれど その優しさが はがゆいんだ	冷たい人の眼差しには もう慣れてしまった

図2 この世に生まれてきたのだから

現しているのが面白いと思いました。

○この詩の夢を追いつけや自分を信じ続けという言葉がとても心にストレートに刺さる言葉。無我夢中で自分の夢に真っ直ぐに努力する少年の姿が連想される。そこを雑草抜きで例える表現が良いと感じた。

○自分が好きな詩は「西3病棟」(図4)です。理由は病気で苦しい中、今を楽しみ頑張っている背景に共感を受けました。自分も辛い中でも頑張っていて楽しんでいきたいです。

○「西3病棟」を選びました。理由は病棟でも前向きに生きようとする気持ちがとても伝わってきて感動しました。僕ももっと強く前向きに生きていこうと思いました。

○働くことについての詩が好きでした。

○幸せを感じるとありますがスーパーやコンビニなどのトイレがキレイだと嬉しいのでそこでトイレを掃除した人の思いが通じ幸せが生まれていたのだと思いました。それが働くことなんだと共感しました。

○リカバリーのために大切な事(図5)の初めに、「リカバリーはそれぞれの基準で考えればいい」という言葉があり印象に残りました。また、「それぞれの世界で元気を維持してゆく事がリカバリーだと思う」。は人と比べることなく自分の精神のことを考えて、自分自身で努力をする強い意志を感じるのでとても良いと思いました。

○今まで働くということは自分の時間を切り売りしてその対価に見合ったお金を貰うことだと考えました。しかし、今日の最後の部分で「誰かの思いが誰かに伝わって幸せが生まれる」という自分の中には無かった考え方が出てきたので感慨深かったです。そのような考えも参考にしたいと思います。

○働くことの考え方は人それぞれだと思った。お金のために働いている人もいれば、人のために働いている人もいると思う。自分はお金のために働くより、人のために働いて相手が良い思いをしたり、幸せに

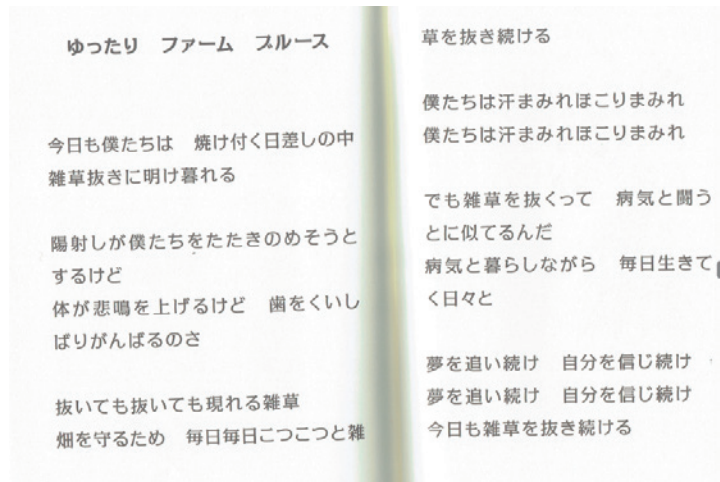


図3 ゆったり ファーム ブルース

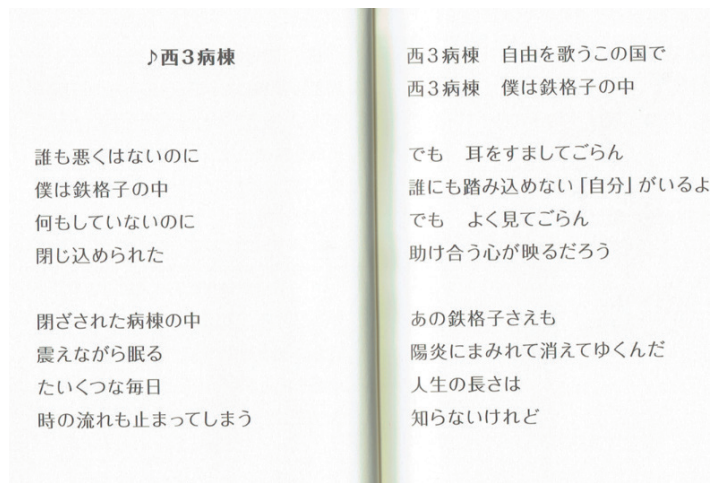


図4 西3病棟

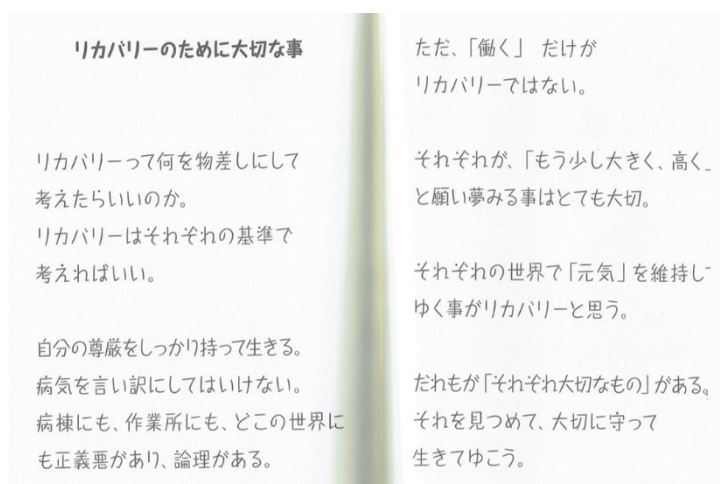


図5 リカバリーのために大切な事

なってくれたら自然と仕事を続けてやりがいに感じると思う。

- 「ありがとう」の詩です（図6）。世の中がすすんでいく、そんな今だからありがとうは大切とこのコロナ禍にも言えることで不満が多い世の中だけどありがとうという感謝の気持ちで穏やかな気持ちになれるからありがとうは大切です。

- 自分と違うものにたいして怖がらずに理解を深めようとすることが大切なんじゃないかなと思いました。他の詩は周りの人や国に皮肉を言うものが多かったが、「僕たちの灯台」（図7）は、周りの人との関係が上手くいってそうな雰囲気でしたので障害を持っている人に限ったことではないが、周りの人間や環境が大切なんだと思いました。

- 障がいを持つことについて悲観的にならず、強い希望を持っているように感じた。小さなことで悩んでいる自分がちっぽけに思えるほど勇気を与えられました。

#### (4) ブルーハーツ「青空」を聞いて、印象に残った歌詞とその理由（2025年10月）

- (a)「歴史が僕を問いつめる。」

- この一文は特に強いインパクトがあります。個人の存在や選択を、歴史そのものから突きつけられているような重さを感じました。

- (b)「生まれた所や皮膚や目の色でいったいこの僕の何がわかるというのだろう。」

- 先のフレーズがまさに差別や偏見に対して憤りを感じられる歌詞でした。

- ここは強いメッセージ性があり、差別や偏見に対する核心を突いていて印象的だと思います。

- この歌の歌詞から読み取れることは、差別に立ち向かう強いメッセージと誰もが平等に生きるべきだという願いを歌っていると思います。特に「生まれた所や皮膚や目の色で、僕の何がわかるというのだろう」という歌詞は、外見だけで、人を判断する理不尽さを鋭く突いていてとても印象に残っています。

- (c)「笑っている奴がいるよ。隠しているその手を見せてみろよ。」

- 差別を象徴していると感じた。権力をもった政治家や議員の体質を表している。

#### (5) 相模原事件について（2021年6月）

相模原の知的障害者の施設で、職員が、利用者を次々と刺殺するという衝撃的な事件が起きた。事件後、学生に、事件を伝える新聞記事と犯人の意見が乗った記事、犯人と手紙のやり取りをした知的障害者を娘に持つ最首悟氏の記事を学生に読ませ、レポートを書かせた。犯人は学生時代に教員を目指していたとい

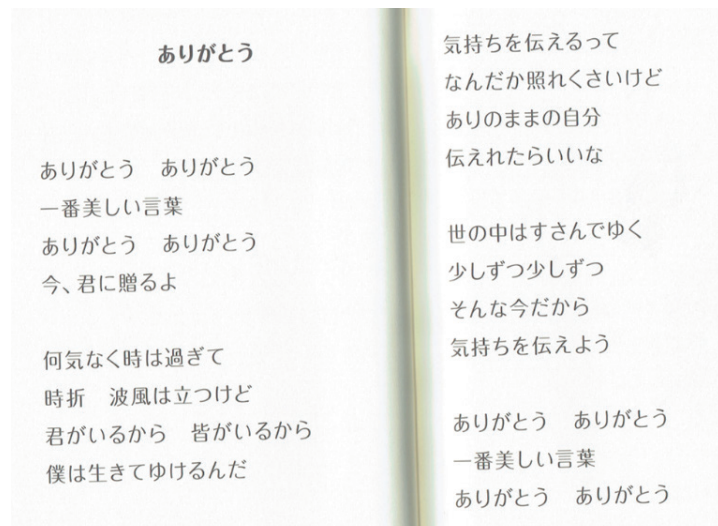


図6 ありがとう

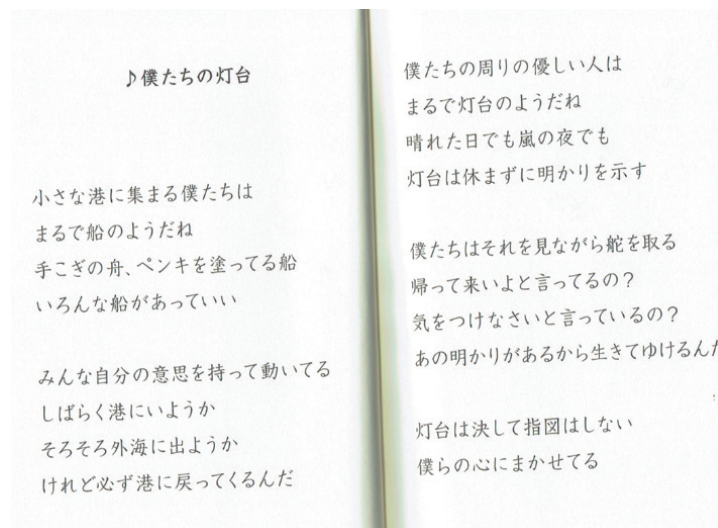


図7 僕たちの灯台

うことも記事の内容には含まれていた。

この事件について学生が考えることで、社会の問題には、すぐに答えが出ない、あるいは答えが一つとは言えない複雑なものもあることを知る機会となる。若い時に答えがすぐにでは出ないが本質的なことを考え、また、同じ問題について、自分と違った意見に触れる機会があることが重要となる。教員は、学生は答えがすぐにみつからなくても社会に出てからその問いを持ち続け、生きていくことに意味があると考えるべきである。

○相模原事件のことを聞いて、植松容疑者のことを簡単には批判できないと思った。実際、障害者を施設に入れているということは、障害者の親が自分たちではどうしようもできないと言っているようなものにも感じてしまった。犯行は許されることではないが、二度と同じようなことが起こらないようにするためにも、施設の在り方を確認していかなければならないと思う。

○やまゆり園での事件はとてもひどい事件であった。犯人は相手が障がい者という理由で卑劣な殺人をしたのはひどいことはわかる。しかし、最近では検査で赤ちゃんが生まれる前から障害があるかどうかを調べられるようになった。産むか産まないか、どのような選択がいいのかは簡単に決めれることではない。しかし、生まれてくる子どもに罪もないので、この問題はとても難しい問題であると感じた。

○やまゆり園の事件は教員（を志望していたから）だからこそ考えてしまうのかなとも思いました。

○やまゆり園事件の記事を読んで「障害者なんていなくなってしまう」との供述が本当に許せないと思いました。障害があるかって差別や傷つく言葉は絶対に言うてはいけないと思います。

○障害者の殺害事件は本当になにを考えているのかわからないなと読んでみてまず思ったことです。しかし、よく心理学などで話されますがいつも元気な人ほど何か思ってることがあったり、その目に見えてる表情と裏腹に何か悪い事を考えている方もいるそうです。それでその時になにを感じてたのかそれをなぜ実行する意味はなんだったのか、僕はそれが1番気になることです。

○被害者の方達の名前の報道のされ方や匿名で裁判が進められることなど、障がい者という理由で健常者と差別がされていることが気になった。

○資料の4ページより「個人の倫理として殺人は認めないが、生産能力のない者は国家や社会の敵であり、そういった人達を殺すことを正義とみなす」とある。このような事件は二度と起こしてはいけないが、現代社会において犯人のこの思想を根底からすべて間違っていると、論理的な理由をもって否定することが出来る人はそれほど多くはないような気がする。

○やまゆり園の記事を読んで、元従業員の加害者の方が『障害者は要らない』のような発言が書かれていて、それは違うと思いました。いかに不自由な人を自由な人達で助けるかが大切だと思うからです。

○私はやまゆり園の事件を読んで、教師を目指していた人がこんなにも変わってしまうことがあるんだなと感じ、またそれと共に障がい者と共生していくことの大変さが伝わる記事だったと思います。実際私はニュースで見たことがありましたが、詳しいことは知らず、加害者の方は学生時代子供が好きであったということを知り、さらに驚きました。障がい者と分けて暮らすことにも一緒に暮らすことにもメリット、デメリットあると思うので、その地域に合わせた考え方が適所適所で必要になってくると思いました。

(6) もうひとつの太平洋戦争』(障害者の太平洋戦争を記録する会編 代表二木悦子 立風書房、1981年)の吃音の障害を持つ人の手記を読んで

障害者が戦時下においてどのような状況に置かれるかを知り、障害者と戦争、あるいは障害とは何か、さらには戦争とは何かを考えるきっかけとなることを目的として行った。

○戦争は、多くの障害者を生み出します。また、戦時下において、「戦力」や「生産性」を持たないとされた障害者は肩身の狭い思いをして過ごしました。

○ゼミでは、太平洋戦争下での障害者の手記を読み、障害者と戦争について皆で考えました。戦争は人の

人生を大きく変えることは知っていたつもりだったけど、これを読んでより理解できました。

- 何にも病気もなく元気に生まれてきた子が何もしていないのになくなってしまったり、後遺症などが残ったりしていて不謹慎だけど、自分はこの時代に生まれてよかったと思いました。
- 印象に残ったのは15pの「軍国主義社会とは障害者がつまはじきだされる社会である」という一文で、これには納得した。またこの文を読んで戦時下ではつまはじきだそうとする圧力が強くなると感じた。最も能率的に戦争を運ぶには障害者は邪魔者だとされるにはどこかで納得する部分がある。
- 戦争の時に障害を持っていた人はとても辛かったと思いますが、年代でどうしても行かないといけないのも心が痛いところでした。
- 軍国主義社会とは、障害者がつまはじきされる社会である。という文で本当にそうだなと思いました。理由は、吃音によって思うように話せないのに、それを理解しようとししない人が大勢いたからです。
- 障害者の扱いが現在とはまるで異なっており、戦時中は戦地に行っても何らかの障害があると足手まといとなる、などの理由で殺害されたり、非国民だったりなど酷い言われていますが、同じ人間なのになぜそこまで酷い言葉を言えるかなと思いました。
- 確かに戦争状態になり心の余裕とかがなくなっても貶すのではなく称え合えたらいいなとも思いました。
- 戦争時は障害者の方は避難などもしづらかったらしくお気の毒だと思う。障害を持っていることを理由に、社会から冷たい目で見られて、自殺すれば解決する、いっそ戦争に行ったら死んでしまいたいという考えに陥ってしまっていて、切ないと思いました。
- 冒頭の「誰が見ても容易に障害者と判別がつかずならば多少の保護も与えられようが、一見健常者と区別が付きにくい私には、社会の目は冷たかった。」という一文は強く胸に突き刺さるものがあつた。
- 今でこそ、ヘルプマークなど一見健常者に見えても実は障害を患っていることを伝える手段はあるが、昔はそんなものなどないのである。そのため、健常者（に見えている）なのに、なぜ咄嗟に言葉が出ないのかや真っ直ぐ歩けないのかを疑問に感じる気持ちは理解できる。しかしながら、この当事者の方が正直に障害を持っていると答えても、「口答えするな」と怒鳴られるのは極めて理不尽であると感じた。このような事が起こってしまったのは、兵役に就けない者は使えない者であると見なされたり、戦前○戦時中ともに男は屈強であるべきという考え方がはびこっていた軍国主義の弊害といえるだろう。アドルフ・ヒトラーは障害者は社会に無用で生きる価値なしと考え、第二次世界大戦が始まると障害者は「T4」「安楽死」プログラムと呼ばれた殺害計画の標的としていたことから、戦時中における障害者の立ち位置がうかがい知れるだろう。今後このようなことが二度と起こらないことを願うばかりである。
- もし今戦争が起きたとしても同じような扱いをされるような気がした。十分に働くことができない人は戦力になるどころか、邪魔者扱いになってしまうと思うため、戦争が起きないような平和な世界でなければならぬと思う。

#### (7) 障害者サポートの新聞記事を読んで

- 障害を持っている人だけでなく子供など、どんな人がみても楽しめるようなユニバーサルデザイン的な形を模索しながらも作っていくということが大切だと思った。これをした方がいいという正解の手助けをするだけでなく、これがしたいという希望を実現するための手助けをする方法を考えていくことが大切なんだなと思いました。
- 耳が不自由でも、歌詞カードを提供して音楽に触れることが出来るので素晴らしいと思いました。障害を持っている方の意見を尊重して、やりたいことをサポートしていきたいです。
- 生まれつき制限がかかった生活をなされてきたと思うので、自分の判断で生活ができるなら判断させてあげた方が良い選択だと思います。できる限り自分がしたいことを楽しんでもらいたいと思いました。
- 耳や目が不自由な方に向けての鑑賞サポートは良いものであるが、周知されないという問題があるが、病院や施設に貼る紙をしたら認知されやすくなるのではないかなと思った。

## (8) 桜将棋を使った授業

桜将棋は著者の知人が江戸時代の将棋をヒントに作ったもので、それをゼミの中で最初の交流ツールとして使い、さらに高齢者や障害者でも使える工夫をゼミで考えさせた。

笑みりハビリデイサービスで桜将棋で交流を行った。(2022年6月)

- 耳が不自由な人は多少のハンデはあるかもしれないけどルールさえ理解すれば普通にやれないことはないと思います。目が見えない人には駒や盤などに点字をつけてできる限りわかりやすくするのが良いかなと思います。
- さくら将棋で、目が不自由な人のために1マス1マスに点字で記したら良いと思いました。
- 目の見えない人は、予め盤が何マスあるか等を伝えておき、自分のコマの位置を確認した上で、相手がどこにコマを動かしたか逐一教えてもらいながら打つ。耳の聞こえない人は、ルールを見えるところに貼っておいて、いつでも確認できるようにして打つ。身体が不自由な人は代理で打ってもらうのが良いと思います。
- 縦や横のマス目に数字やアルファベットなどの記号をつけ、それを覚えて行う。
- 白には点字、赤には点字なしで触って確認できるようにする。触った際に場所がズレないように磁石を使った駒にすると良いと思いました。
- 白と赤とで重さを変えたり、音がするなどと言ったことを加えることで目が不自由な人なども楽しめる考えた。
- 障がい者の方でも桜将棋ができるように駒の形を工夫して目の見えない方にも行なってもらおう。耳の聞こえない方はそのままの状態でもできると思う。
- 障がい者の種類にも様々なものがあるという話をされていたのもっと理解を深めるべきだと感じた。
- 桜将棋のやり方は色んな形の不自由を持っている人達がいるのでそれに合わせて点字や音声認識など方法を考えれたと思います。



写真17 桜将棋のルール説明



写真18 お年寄り同士の対戦

## 2.5 ゼミで学んだこと

- 見学したり、体験したこと、学んだことを言葉にし、ゼミの中で発表することで、振り返りの機会とした。
- 春学期のゼミを振り返って思ったことは、エンジョイハウスでは回想法について、受けている方たちが実際どのような調子なのかということを含めてしっかりと知ることができました。福祉器具プラザでは障害者の方々が快適に生活できるようにどのような設備が設けられているかが詳しくわかりました。これからはゼミを踏まえてサイトなりなんなりにまとめていけたら良いかと思います。
- 日頃自ら行くことが少ない場所ばかりだったので施設や福祉器具プラザなどは新鮮で面白かったです。また、お二人の講演を聞いて障害者の方々の働く環境や回想法のことなど、とても勉強になりました。
- 今年の春学期のゼミでは、今までより施設や見学の回数もかなり増えて福祉器具だったり、施設長の講

演などの話も聞いて福祉関係の事をさらに深く知れる良い機会が多かったなと思いました。

- 老後の事を考えたり、障がい者になってしまったことを考えたりすることはなかなか無い機会ですが、ゼミを通して、もし自分の身体が障がいを起こした時に、生きがいや対策を学べたことはとても将来に生きてくるなと感じました。
- 施設長の講演で戦争の時の障がい者の地位が分かった。学校では障がい者など分けて教えてもらわなかったので初めて知った。
- 様々な施設に行き、今まで知らなかった色々な知識を知ることができました。特にニコニコエンジョイハウスでは、実際に体験をして自分と施設の人では違うことが多くてとても良い刺激を受けました。
- 老後の事を考えたり、障がい者になってしまったことを考えたりすることはなかなか無い機会ですが、ゼミを通して、もし自分の身体が障がいを起こした時に、生きがいや対策を学べたことはとても将来に生きてくるなと感じました。
- 様々な施設に行き、今まで知らなかった色々な知識を知ることができました。特にニコニコエンジョイハウスでは、実際に体験をして自分と施設の人では違うことが多くてとても良い刺激を受けました。
- 福祉に関して大きく2つの視点から学ぶことができる。一つ目に人との接し方、自身の生活スタイルとは異なる習慣や障がい者の障がいによって沢山の伝え方や関わり方があるということを知れる。二つ目に物、高齢者の方々が使う物の使い方や危険性などを直接体験して学べる。自分がいつどうなるか分からないからこそ、知っておくことで自分にも他者にも意味があると感じた。
- 直接福祉施設に行き、職場を体験することができた。障害を持った方への接し方を学んだ。コミュニケーションを多く取ることができる。
- ゼミの活動内容は障害や福祉を学ぶことができ、障害者がいる施設や福祉施設を見学することが出来るので、現場での理解を深めることができます。障害のことを深く理解して知ることができたし、福祉のことはあまり知識がなかったので、知れる機会になっていてとても貴重な機会になっていて勉強になっています。
- 高齢者や障がい者の利用する施設や器具を知ることが出来る。今後自分たちも利用する可能性はゼロとは言いきれないため知っておいて損は無い。特に自分に子どもが出来るとき、障がい者だった場合どのような対応をすれば良いのか頼れる人、施設を知っておこうとするようになる。



写真19 対戦を見るゼミ生

## 2.6 ゼミ活動の総括

ゼミでは、実際に現場に行き、見学や交流の体験をしながら、知識を踏まえて、福祉についての理解を深めることを行ってきた。単に体験に終わるのではなく、また、机上の知識にとどまるのではない両者をつなぐ総合的な学習を進めてきた。

事前に学習して、現場に行き、体験だけで終わるのではなく、それを振り返り、ゼミの中で発表し、それを互いに共有していくことで、体験は本当の意味での知識となる。そのような過程を経ていくことでゼミ生は、徐々に関心を深め、自分の見方で福祉について考えるようになる。

また、実際に、手を動かして何かを作ってみる経験も重要である。自分の頭の中にあるものを形にして目に見えるものとするのが、自己実現につながると考える。

ゼミでは学生の自主性を尊重し、自由な雰囲気で行うようにしている。しかし、守るべきルールはしっかりと守るように伝えている。

ゼミは、学生が福祉とは何か、自立とは何か、幸せとは何かを考える機会となっている。